



実践事例集

完全保存版

✿ お問い合わせ先 ✿

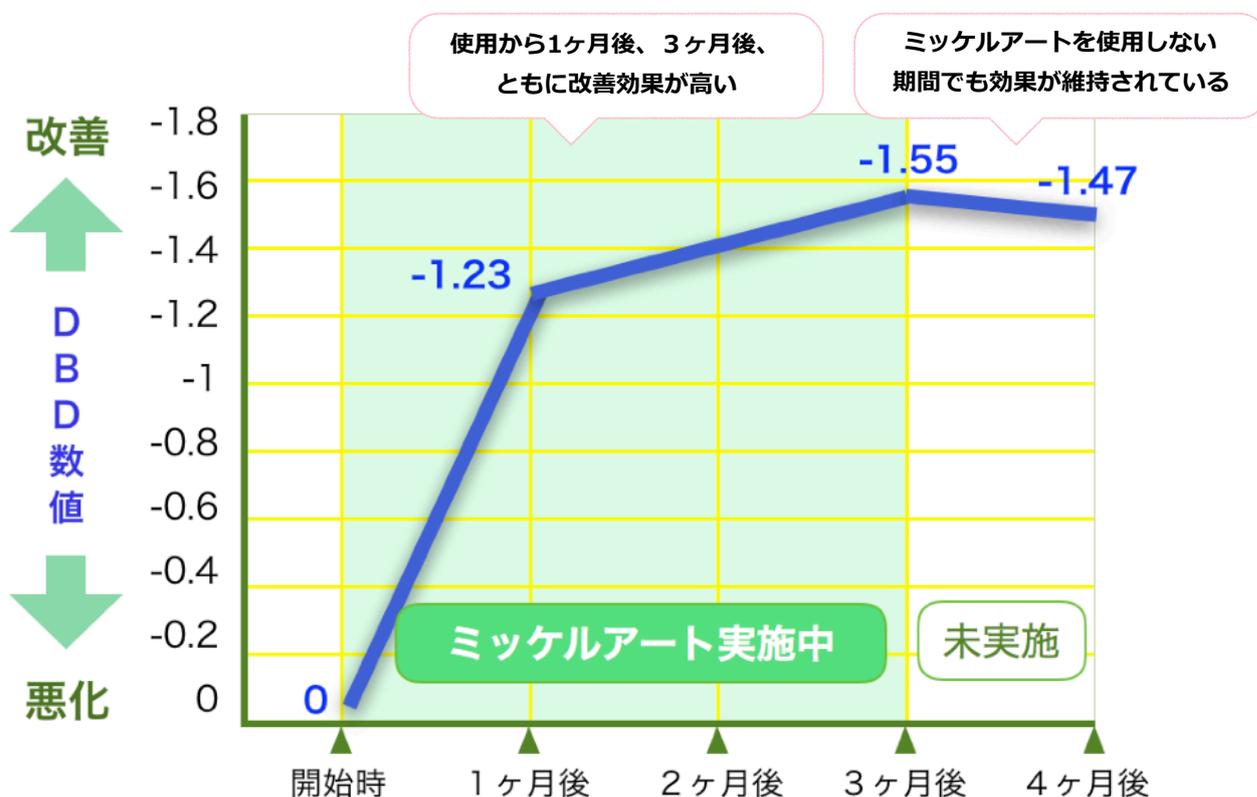
TEL 053-474-5717 (9時～19時)  
shop@sprayart-xin.com (24時間受付)

## 周辺症状の改善効果（エビデンス）

下のグラフは、ミッケルアート紙版を3ヶ月間、週2回、1回あたり20分間使用し、使用後1ヶ月はなにもしていない（ミッケルアート未使用）の状態を示したものです。認知症高齢者281名分のデータを収集しました。

このデータを分析したグラフが以下になります。グラフから、**開始1ヶ月から3ヶ月目まで周辺症状が改善している**ことがわかります。さらに、ミッケルアート紙版の**使用を1ヶ月やめてもほぼ効果が持続しています**。

結果、ミッケルアート紙版には**認知症の周辺症状改善に高い効果がある**ということが明らかになりました。

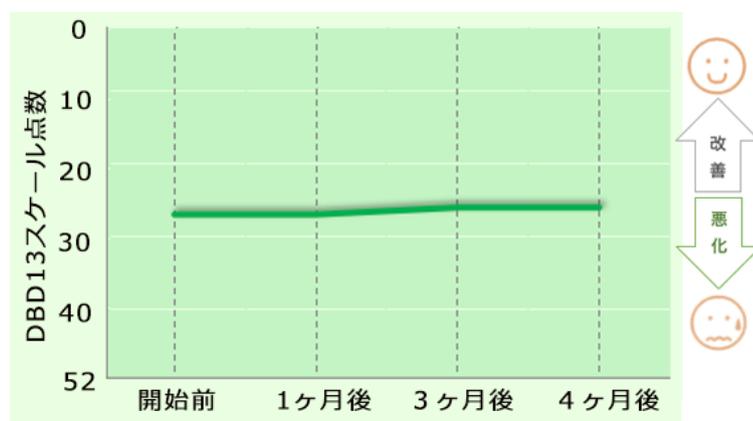


### ■ これまでの研究で明らかになっていること

- ★ **認知症の軽度～重度**の方まで活用できます。
- ★ **認知症予防から進行抑制**まで活用できます。
- ★ アルツハイマーや脳血管性など、**すべての認知症**に対して活用できます。
- ★ 特に**脳血管性認知症**の方は、**改善数値が高い傾向**が見られます。

## ミッケルアートを取り入れた効果と数値評価

施設形態	デイサービス(定員19名以上)
認知症	パーキンソン病 レビー小体型認知症
介護度	5
ADL移動	3
ADL食事	2
ADL排泄	3
ADL入浴	3
ADL更衣	2
ADL整容	3
認知症自立度	Ⅲa
寝たきり度	B1



### 主な症状

- ・よく物をなくしたり,置場所を間違えたり,隠したりする
- ・やたらに歩き回る
- ・同じ動作をいつまでも繰り返す
- ・世話されるのを拒否する

### Q1 コミュニケーションはどのように変化しましたか？

ミッケルアートを実施する前は、

- ・チラシをちぎり、よく口に入れようとしていた。
- ・昔の話を聞いても全く違う答えが返ってきた。

ミッケルアートの実施期間中、実施した日は、

ミッケルアートをちぎってしまったり、口に入れようとする事は変わらずあったが、時折絵を見ながら職員と昔の話をすることができた。

ミッケルアートの実施期間中、実施していない日は、

あまり変わりはないが、今まで無かったお子様の話をしたり、お子様の名前を教えてくださいることがあった。

### Q3 ミッケルアート実施の際に心がけていることや、されている工夫を教えてください

出来るだけ笑顔。そして絵にとらわれず、絵をきっかけに様々な方向から話を進め、様々なことを聞きだせるよう取り組んでおります。

### Q4 周辺症状はどのように変化しましたか？

大きな変化はありませんでしたが、ミッケルアートを使用しながら、職員と1対1で話せる時間が少し増えたように思います。

### Q5 自由記述(感想や気づいたこと)

重度のレビー小体型認知症の方には取り組みが難しいと感じました。ミッケルアートの絵を見てもミッケルアート(絵)と理解できず他のものに見えてしまっている様子で、すぐちぎってしまい話が出来ないことがよくあった。デイサービスではショートステイ等で休まれることもあり、頻繁に行なえないというのが難点だと思いました。しかし、利用者様の生活背景や幼少期の事など聞けて、今後も、アセスメントを取るのに非常に活用できるツールですので、今後も活用して行きたいと思っております。

イラスト

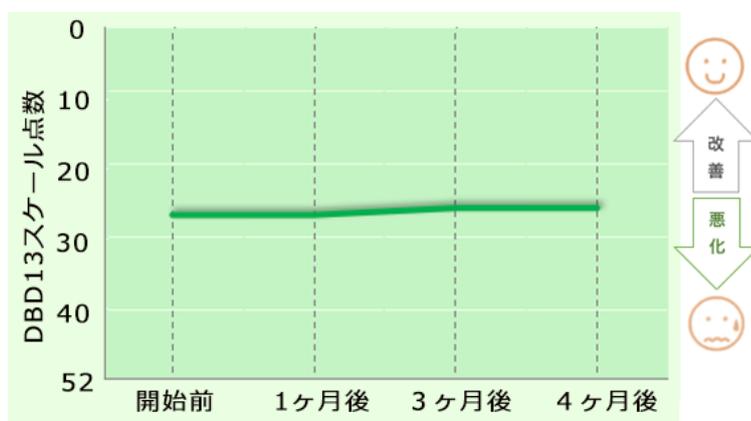
イラスト

イラスト

イラスト

## ミッケルアートを取り入れた効果と数値評価

施設形態	デイサービス(定員19名以上)
認知症	パーキンソン病 レビー小体型認知症
介護度	5
ADL移動	3
ADL食事	2
ADL排泄	3
ADL入浴	3
ADL更衣	2
ADL整容	3
認知症自立度	Ⅲa
寝たきり度	B1



### 主な症状

- ・よく物をなくしたり,置場所を間違えたり,隠したりする
- ・やたらに歩き回る
- ・同じ動作をいつまでも繰り返す
- ・世話されるのを拒否する

### Q1 コミュニケーションはどのように変化しましたか？

ミッケルアートを実施する前は、

- ・チラシをちぎり、よく口に入れようとしていた。
- ・昔の話を聞いても全く違う答えが返ってきた。

ミッケルアートの実施期間中、実施した日は、

ミッケルアートをちぎってしまったり、口に入れようとする事は変わらずあったが、時折絵を見ながら職員と昔の話をすることができた。

ミッケルアートの実施期間中、実施していない日は、

あまり変わりはないが、今まで無かったお子様の話をしたり、お子様の名前を教えてくださいることがあった。

### Q3 ミッケルアート実施の際に心がけていることや、されている工夫を教えてください

出来るだけ笑顔。そして絵にとらわれず、絵をきっかけに様々な方向から話を進め、様々なことを聞きだせるよう取り組んでおります。

### Q4 周辺症状はどのように変化しましたか？

大きな変化はありませんでしたが、ミッケルアートを使用しながら、職員と1対1で話せる時間が少し増えたように思います。

### Q5 自由記述(感想や気づいたこと)

重度のレビー小体型認知症の方には取り組みが難しいと感じました。ミッケルアートの絵を見てもミッケルアート(絵)と理解できず他のものに見えてしまっている様子で、すぐちぎってしまい話が出来ないことがよくあった。デイサービスではショートステイ等で休まれることもあり、頻繁に行なえないというのが難点だと思いました。しかし、利用者様の生活背景や幼少期の事など聞けて、今後も、アセスメントを取るのに非常に活用できるツールですので、今後も活用して行きたいと思っております。

イラスト

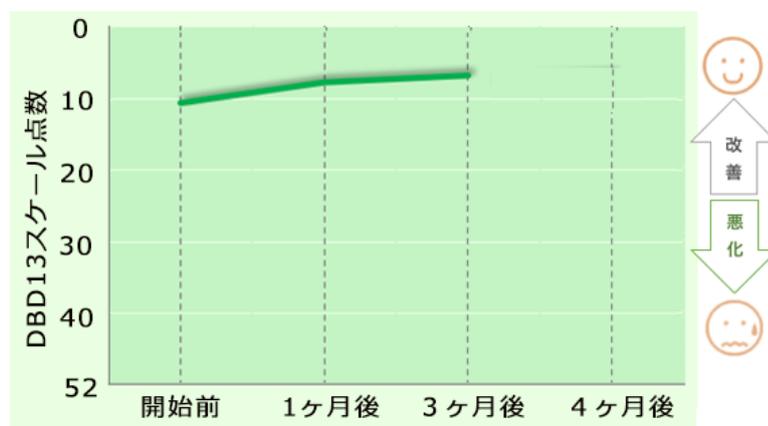
イラスト

イラスト

イラスト

## ミッケルアートを取り入れた効果と数値評価

施設形態	デイサービス(定員19名以上)
認知症	アルツハイマー型認知症
介護度	1
ADL移動	1
ADL食事	1
ADL排泄	1
ADL入浴	1
ADL更衣	1
ADL整容	1
認知症自立度	Ⅱb
寝たきり度	A2



### 主な症状

- ・よく物をなくしたり,置場所を間違えたり,隠したりする
- ・昼間、寝てばかりいる

イラスト

### Q.1 コミュニケーションはどのように変化しましたか？

ミッケルアートを実施する前は、

ウトウトしてることが多々あり自発的な発言が少なかった

ミッケルアートの実施期間中、実施した日は、

自発的に発言されることが多々見られた。

ミッケルアートの実施期間中、実施していない日は、

ウトウトされることが少し減った。

イラスト

### Q.2 ミッケルアート実施の際に心がけていることや、されている工夫を教えてください

出来るだけ笑顔。そして絵にとらわれず、絵をきっかけに様々な方向から話を進め、様々なことを聞きだせるよう取り組んでおります。

イラスト

### Q.3 周辺症状はどのように変化しましたか？

自発的に発言するようになり、ミッケルアートを実施している時は特に傾眠が少なくなった。

イラスト

### Q.4 ミッケルアートを通じて得られたご利用者様の情報を今後どのように日々の『声かけ』

『活動』に活かしたいと思えますか？

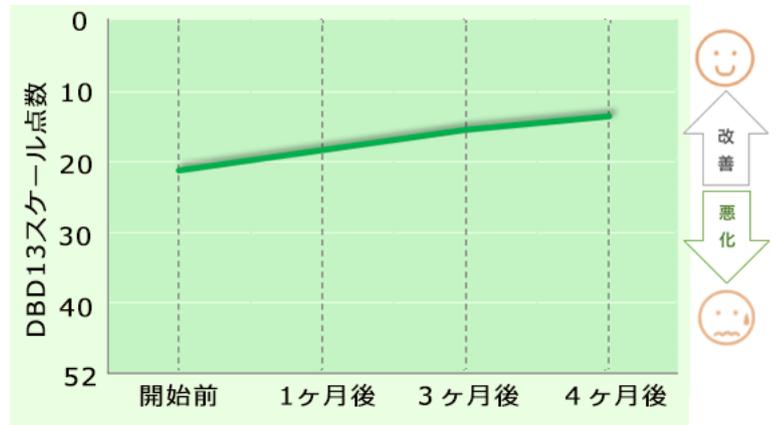
- ・やりたいことが少しずつ出てきたので、これからの活動に活かしていく。
- ・最後はのんびり過ごすより、楽しく過ごしたいとの事で、今後も笑顔で過ごして頂けるよう取り組んでいく。

### Q.5 自由記述 (感想や気づいたこと)

子供のときの思い出が強く、特に楽しい思い出が強く残っていた。  
 周囲の方とも会話が増えるよう話題を提供できるように声掛けしていく  
 昔の遊びを取り入れたりして、活動的になれるようにしていく

# ミッケルアートを取り入れた効果と数値評価

施設形態	デイサービス(定員19名以上)
認知症	アルツハイマー型認知症
介護度	1
ADL移動	2
ADL食事	2
ADL排泄	2
ADL入浴	2
ADL更衣	2
ADL整容	2
認知症自立度	Ⅲa
寝たきり度	B1



## 主な症状

- ・ 同じことを何度も何度も聞く
- ・ 昼間、寝てばかりいる
- ・ 同じ動作をいつまでも繰り返す

イラスト

### Q1 コミュニケーションはどのように変化しましたか？

ミッケルアートを実施する前は、

傾眠傾向にあり、声掛けを行っても5分程しか開眼する事が出来ていない。その為、もともと交流のあった近所の人と話をすることも減り、一人で椅子座位でいることが多くなっていた。朝の体操が終わる10時過ぎからは、帰宅時間が気になるのと併せてトイレが頻回となっており、趣味活動や隣の人との話ができない状態となっていた。

ミッケルアートの実施期間中、

実施し開始時は、絵に関心を持っていない日が多く、短文での返答のみ可能となっていたが、徐々に隣の人の話を聞いて頷くなど変化がみられた。中盤頃に傾眠傾向が強い日が増え、ミッケルアートを短い時間でしか実施できなかったことで、他利用者と話をすることが減り、コミュニケーションの機会減少に繋がった。しかし、後半ごろには徐々に調子の良い日が増え、参加する事が出来る様になり、自発的に職員や利用者に話しかけ、会話中にも笑顔が見られることが増えた。その頃からトイレの数も軽減した。

ミッケルアートの実施期間中、実施していない日は、

最初頃は腹部を触りながら傾眠傾向にあり、帰りの時間ばかり気になりトイレが頻回となり、不穏傾向になっていた。しかし、後半頃になると午前中は傾眠してしまいが、午後からは徐々に傾眠せず覚醒している時間が増え、席に座っている人と話をしたり、活動にも積極的に参加する様子が見られたが、空き時間や周りが騒がしくなると、帰宅時間が気になり何度も尋ねたり、トイレに行こうとする様子が見られた。

イラスト

イラスト

### Q3 ミッケルアート実施の際に心がけていることや、されている工夫を教えてください

傾眠傾向にあり、声掛けのみでの覚醒を行う事が出来ない事が肌に触れるなどの触覚刺激と声掛けなどの聴覚刺激の両方を利用し、覚醒を促すように工夫した。又、傾眠傾向にある時には、言語理解が難しい事が多かったため、絵を指さしたり身振り手振りなど視覚的に理解しやすいように工夫した。

### Q4 周辺症状はどのように変化しましたか？

午前、午後関係なく何もしていない時間が続くと帰宅欲求が強くなると共に、帰る前にトイレに行きたいとの訴えが増えていたが、活動参加する機会が増え始めたころから徐々に訴えが少なくなり、現在は食後まではトイレの訴えはほとんどなく、午後からも以前と比べるとトイレに行く数は減少した。

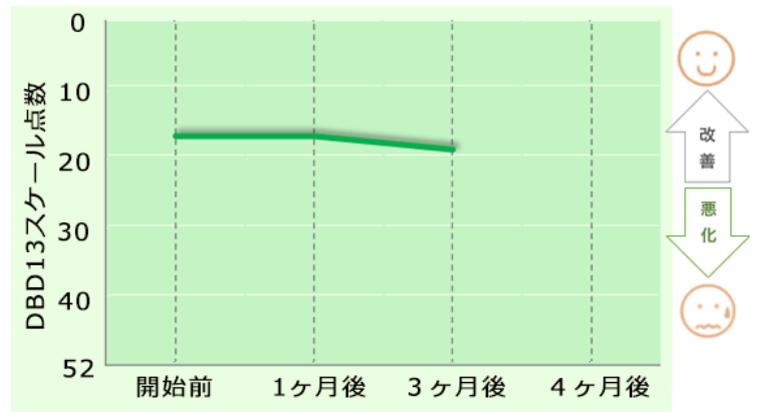
イラスト

### Q5 自由記述（感想や気づいたこと）

日中の傾眠傾向が強く、活動参加や会話の機会が減っていたM・H氏に対し、日中の活動参加を行なう事で活動量が増え、夜間に睡眠が十分とれるようになればと導入を行なったが、ミッケルアートを通し他者との会話を楽しんだり、昔の話を自発的に行なう様になるなど日に日に変化が見られたことに驚いた。途中、傾眠傾向が強くなり実施出来ない日も増えたが、終わりがくにはミッケルアートではない他の活動でも行えるようになり、活動参加導入の良いきっかけになったように感じる。

# ミッケルアートを取り入れた効果と数値評価

施設形態	デイサービス(定員19名以上)
認知症	アルツハイマー型認知症
介護度	3
ADL移動	1
ADL食事	1
ADL排泄	2
ADL入浴	2
ADL更衣	2
ADL整容	2
認知症自立度	Ⅲa
寝たきり度	A1



## 主な症状

- ・よく物をなくしたり,置場所を間違えたり,隠したりする
- ・昼間、寝てばかりいる
- ・場違いあるいは季節に合わない不適切な服装をする

## イラスト

### Q1 コミュニケーションはどのように変化しましたか？

#### ミッケルアートを実施する前は、

昼夜逆転傾向にある為、傾眠傾向にあり活動中に寝てしまい、会話量や交流の機会が減っていた。又、会話の中で聴こえないところを解釈し、誤認してしまう。

#### ミッケルアートの実施期間中、

実施した日は想起がしやすくなったこともあり、絵を見ながら話の量が増えた。又、会話を行うきっかけになった事で、被害的な発言は聞かれなくなり、グループの中で昔の話を他利用者と楽しむ様子が見られ、笑顔も多く見られた。

#### ミッケルアートの実施期間中、実施していない日は、

グループの人ではない人に一方的に話しかける為、他利用者が避けてしまい会話が出来ない事が多く、不安症状が出現していた。その為、席の配置を工夫しミッケルアートを行うグループと同じ机に座ると、お互い親しみのある顔が近くにいる事で不安症状が少し軽減した。

## イラスト

## イラスト

### Q3 ミッケルアート実施の際に心がけていることや、されている工夫を教えてください

難聴傾向にある為、出来るだけ口元や表情が見える様に工夫を行った。又、ジェスチャーなど身振り手振りなども用いた。気が散りやすいので静かな場所で実施を行った。したくないとの訴えがあった時には、あまり無理をせず利用者の意思を尊重するようにする。

## イラスト

### Q4 周辺症状はどのように変化しましたか？

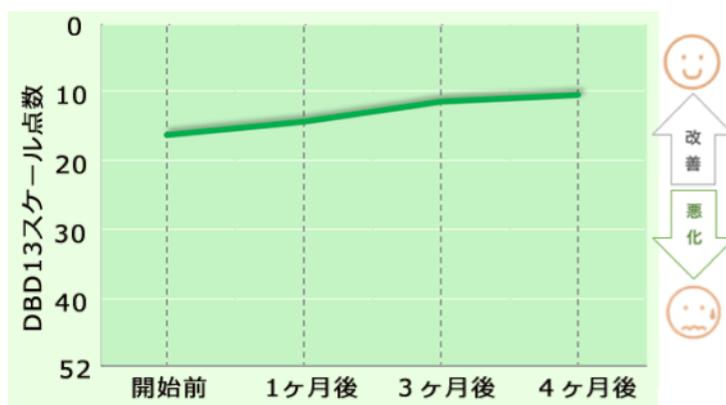
見当識障害による焦燥感や不安感が強い為、悲観的な発言が多く聞かれていたが、馴染みのグループが出来た事で、焦燥感の訴えは軽減した。しかし、昼夜逆転傾向にある為、横になりたいとの訴えが増え、腰痛や体調不良の訴えが増えてしまった。

### Q5 自由記述(感想や気づいたこと)

最終的には腰痛が悪化し、利用中止になってしまったが、ミッケルアートを通し、顔見知りや常に周りにいるという安心感により不安感や焦燥感が徐々に減った。また自発的に話をする、強く記憶に残った同じ話をする事が多かったが、絵を見ながら話を行なう事できっかけが生まれ、今まで聞いたことが無い話が沢山聴けたのは、ミッケルアートのおかげだと感じる。

# ミッケルアートを取り入れた効果と数値評価

施設形態	デイサービス(定員19名以上)
認知症	アルツハイマー型認知症
介護度	3
ADL移動	1
ADL食事	1
ADL排泄	2
ADL入浴	3
ADL更衣	2
ADL整容	2
認知症自立度	Ⅲa
寝たきり度	—



## 主な症状

- ・よく物をなくしたり,置場所を間違えたり,隠したりする
- ・同じ動作をいつまでも繰り返す
- ・明らかな理由なしに物を貯めこむ

イラスト

### Q.1 コミュニケーションはどのように変化しましたか？

#### ミッケルアートを実施する前は、

個別で行う活動は、注意散漫となり周囲が気になる為、すぐに中断してしまう。又、言語理解が難しいため、集団で行う活動時には理解が出来ず、同じ動作を繰り返したりする様子が見られる。会話を行うと、想起・連想が難しく、馴染みのある家族の話ばかりしてしまう。

#### ミッケルアートの実施期間中、

実施した日は初期から中期にかけて言葉の想起・連想が難しく、物の連想が曖昧になっているため、馴染みのある家族の話ばかりになってしまいが、視覚的に促せば呼称は可能だった。又、笑顔が見られ、熱心に話を聞く姿がみられた。後期には、表出は難しいままだったが単語であれば言語理解が少し出来る様になり、他利用者の話を聞きながら相槌を打ったり会話を行うことが可能となっていた。又、話しかける様子が見られた。

#### ミッケルアートの実施期間中、実施していない日は、

隣に座った利用者を気遣う様子が見られていた。しかし、自発的に話をする会話の機会は減ってしまっていた。

イラスト

### Q.2 ミッケルアート実施の際に心がけていることや、されている工夫を教えてください

言語理解が難しいため、絵や文字、ジェスチャーなどを用いて実施を行った。又、不安感の強い方などで同じ場所、同じ職員がミッケルアートを行い顔見知りになる事に重点を置いた。

イラスト

### Q.3 周辺症状はどのように変化しましたか？

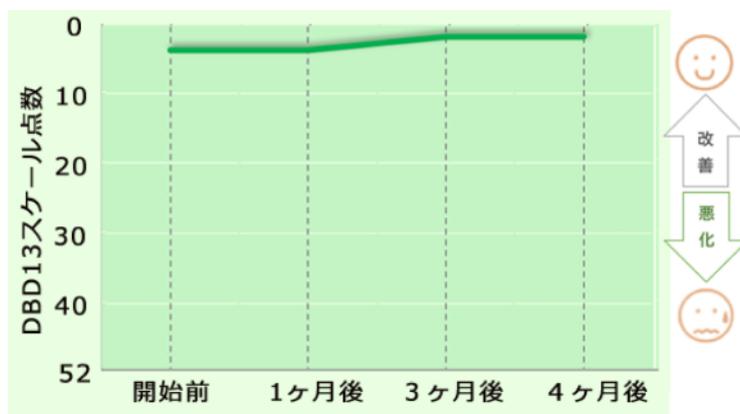
ミッケルアートを行う利用者と同じテーブルになるようにすると、顔見知りがいっぱい近くにいる安心感からか焦燥感・不安感が軽減した。又、顔見知りになったことで誘導時の拒否が減った。

### Q.4 自由記述(感想や気づいたこと)

表出も理解も難しいため、思いが伝わらない事が多く表情が険しくなることも多くあったが、表出や理解を促す機会を設ける事が出来た事で、言語理解が出来る事が増え、他者との会話の際の食い違いが減ってきたように感じる。又、表情が徐々に柔らかくなり、笑顔が増えた様に感じる。このことから、適度な交流や表出の機会を設けることは大切なのだと感じた。

# ミッケルアートを取り入れた効果と数値評価

施設形態	デイサービス(定員18名以下)
認知症	アルツハイマー型認知症
介護度	1
ADL移動	1
ADL食事	1
ADL排泄	1
ADL入浴	2
ADL更衣	1
ADL整容	1
認知症自立度	I
寝たきり度	J1



## 主な症状

- ・日常的な物事に関心を示さない
- ・世話されるのを拒否する

イラスト

### Q.1 コミュニケーションはどのように変化しましたか？

#### ミッケルアートを実施する前は、

会話の発語数が短く、声が小さい為、はっきりと聞き取れることができませんでした。また、周囲の状況も、どちらかというとも無関心に近いほうでした。

#### ミッケルアートの実施期間中、

会話のトーンやボリュームに変化があり、はっきりと聞き取れることがありました。離れていたスタッフも本人の声が聞こえて驚いていました。

#### ミッケルアートの実施期間中、実施していない日は、

自ら何かをしたいということはありませんでした。しかし、以前よりも周囲の状況を見ているような感じがしました。

イラスト

### Q.2 ミッケルアート実施の際に心がけていることや、されている工夫を教えてください

他の方との生活環境等が違う為、話が合わないことがありました。そこで、本人に声を掛けてお話を聞き出しながら、周りの方々との状況やお話しとを結び付けるようにして、できるだけ共有できる状況・環境作りを中心に掛けました。また、質問や声掛けの際もできるだけ時間をかけて、本人から発するのを待ち、場合によってはヒントを出して答えを導き出すようにしました。

イラスト

### Q.3 周辺症状はどのように変化しましたか？

実施中の発声は毎回ではありませんが、聞き取れるくらいの発声が見られることがありました。また、話している時の表情も良く、イキイキと笑顔で話されています。日常生活においても、周囲の状況や動きをよく見ているように感じられました。

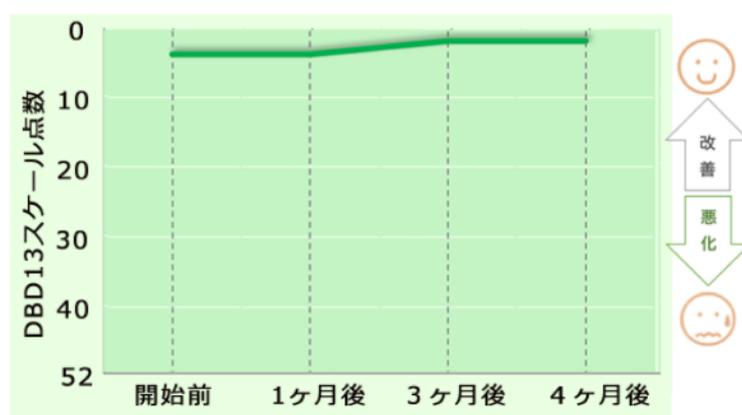
イラスト

### Q.4 自由記述（感想や気づいたこと）

自分自身、A様が何事も消極的な人なんだと勝手に受け取っていた部分がありました。実際に、実施している本人を見ていると、最初は戸惑いつつも回を重ねるごとにやることを理解し、積極的な発言こそ多くはなかったのですが、質問などにもはっきりと答えていました。また、声に出さなくても、目で「ここにいるよ」と探し出して指で示して教えてくれました。今まで、いろいろなことにあまり興味がないものだを思っていました。が、「一人ではやりたくない」が「皆とならやってみよう」部分もあるのだと気づきました。

## ミッケルアートを取り入れた効果と数値評価

施設形態	デイサービス(定員18名以下)
認知症	—
介護度	1
ADL移動	1
ADL食事	1
ADL排泄	1
ADL入浴	2
ADL更衣	1
ADL整容	1
認知症自立度	Ⅱb
寝たきり度	J2



### 主な症状

- ・よく物をなくしたり、置場所を間違えたり、隠したりする
- ・昼間、寝てばかりいる

イラスト

### Q1 コミュニケーションはどのように変化しましたか？

ミッケルアートを実施する前は、

ウトウトと居眠りをされていることが多かったです。

ミッケルアートの実施期間中、

絵をよく見入っていました。質問等聞こえにくいこともありましたが、一生懸命探していたり、昔のお話を懐かしそうに話されていました。

イラスト

ミッケルアートの実施期間中、実施していない日は、

やはり居眠りは見られましたが、「何かするのかな」というような感じで周りを見ていることが時々あるように感じられました。

イラスト

### Q3 ミッケルアート実施の際に心がけていることや、されている工夫を教えてください

耳が遠い為、他の方の会話が聞こえないのでわかるように伝え、それにつながるような話を本人からも話を引き出ようにしました。時折、言葉が出てこない時もありましたが、そこは皆で一緒に考えたりしながら、その場の共有につなげていきました。

イラスト

### Q4 周辺症状はどのように変化しましたか？

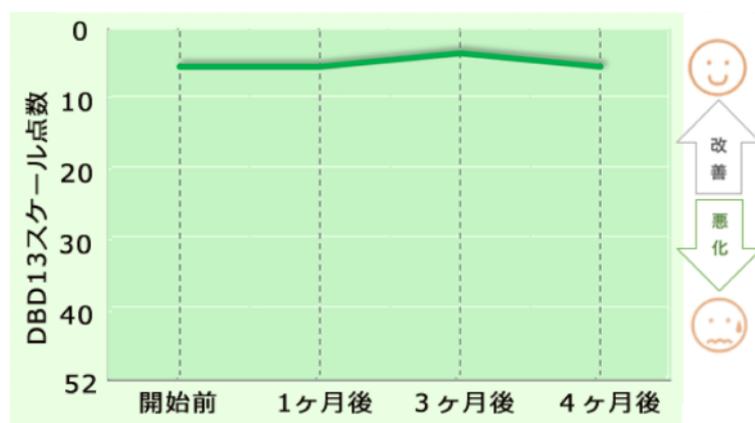
高齢なこともあるのか、よく居眠りをしていました。しかし、何かやることがあれば集中されて実施しています。また、起きている時は、以前は我関せずのように過ごされていたのですが、最近は周囲の状況を見ている時が少しではありますが増えたように感じます。

### Q5 自由記述（感想や気づいたこと）

いつも居眠りをされており、高齢なことと一週間のリハビリ等の組み方が原因かと思っていました。少なからず、これらも原因の一つかと考えられますが、今回の実施を通して感じたのは、やはり「何かをしたい」「何をしたらいいのか」がわからないことです。今後、本人と一緒に「活動」を考え、探し出していきたいです。

## ミッケルアートを取り入れた効果と数値評価

施設形態	デイサービス(定員18名以下)
認知症	アルツハイマー型認知症 脳血管性認知症
介護度	1
ADL移動	2
ADL食事	1
ADL排泄	2
ADL入浴	1
ADL更衣	1
ADL整容	1
認知症自立度	Ⅲa
寝たきり度	A1



### 主な症状

- ・同じことを何度も何度も聞く
- ・昼間、寝てばかりいる
- ・世話されるのを拒否する

イラスト

### Q1 コミュニケーションはどのように変化しましたか？

#### ミッケルアートを実施する前は、

独語、多弁があり、TVや他者の話を聞き、それについて自分の話を勝手に淡々と話しているということが目立っていました。また、ウトウトと居眠りが見られていました。

#### ミッケルアートの実施期間中、

多弁ではありますが、絵を見ながら、昔のことや思い出話など目的にあったお話を楽しそうに話されていました。

#### ミッケルアートの実施期間中、実施していない日は、

ウトウトと居眠りをされていました。独語もみられましたが、そのお話が他の方との会話につながることも時々ですが見られました。

イラスト

### Q3 ミッケルアート実施の際に心がけていることや、されている工夫を教えてください

お話が好きなので、独走してしまいます。他の方との状況やバランスを考慮しながら、話題や質問等で調整することが必要でした。また、時々ですが、絵の場面にあった歌を皆で考えて探し出し、一緒に歌ったりしました。

イラスト

### Q4 周辺症状はどのように変化しましたか？

大きな変化はありませんが、実施中の会話は、時々浮いてしまうこともありましたが、本人なりに協調性をもって会話に参加されていたように感じます。

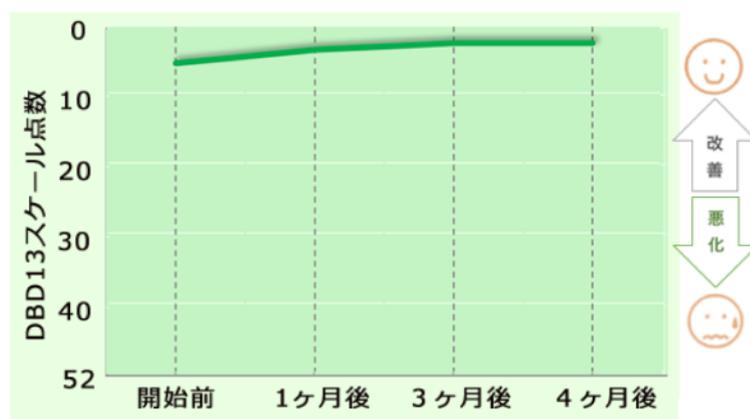
イラスト

### Q5 自由記述（感想や気づいたこと）

単に「よく喋る人」と捉えがちでしたが、実際は『寂しさ』を隠す・ごまかす為に話すということもあるのだと考えさせられました。実際のところは本人にとってそうなのかはわかりませんが、ミッケルを通じてそう感じました。ただ、多弁によって周囲との環境が悪くなってしまう危険性もあります。これらに注意しながら、本人の居心地が良い環境へとつなげていければと考えます。

## ミッケルアートを取り入れた効果と数値評価

施設形態	デイサービス(定員19名以上)
認知症	—
介護度	—
ADL移動	1
ADL食事	1
ADL排泄	1
ADL入浴	2
ADL更衣	1
ADL整容	1
認知症自立度	—
寝たきり度	—



### 主な症状

- ・同じことを何度も何度も聞く
- ・よく物をなくしたり,置場所を間違えたり,隠したりする
- ・日常的な物事に関心を示さない

イラスト

### Q1 コミュニケーションはどのように変化しましたか？

ミッケルアートを実施する前は、

話しかけるとお話されるが、自身から話すことはあまりなかったが、時間をとってじっくりお話をするといろいろな事を話して下さい。お若い頃の事をよく覚えており、ご家族の事などもよく話していた。

ミッケルアートの実施期間中、

今日もお話聞かせて下さいとお誘いすると、いいわよと笑顔で言われる。明るく笑顔でお話される。楽しい話が多く、暗い話はしない。

ミッケルアートの実施期間中、実施していない日は、

穏やかな方であり、お顔なじみの方々と談笑し和やかに過ごす。

### Q3 ミッケルアート実施の際に心がけていることや、されている工夫を教えてください

話しかけると話されるが、自身からいろいろな話をされる事は少ないので、お若い頃のお話を聞く機会あまり無かった。お若い頃の事、ご結婚されてからの事などお話頂ける様にいろいろお聞きしたい。

イラスト

### Q4 周辺症状はどのように変化しましたか？

レクリエーションへの参加も、他ご利用者様がするのだろうかという印象だったが、笑顔が多くなり各場面でお話されることも多くなった。

### Q5. ミッケルアートを通じて得られたご利用者様の情報を今後どのように日々の『声かけ』

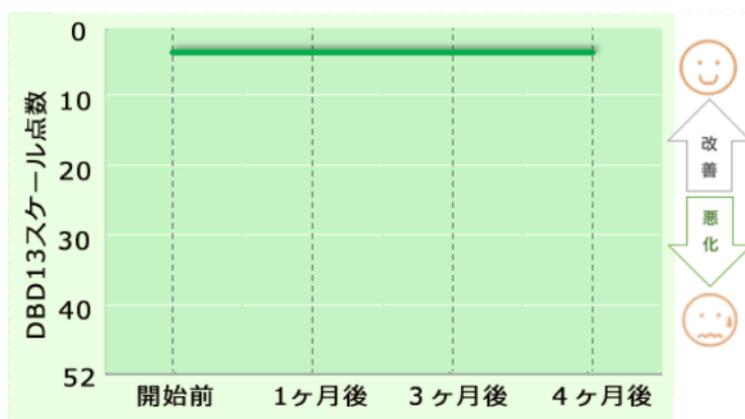
『活動』に活かしたいと思いますか？

- ・ミッケルアート実施時、自話話し、話す内容も多くなってきている。利用時、多く声掛けしていきたい。
- ・入浴時、レクリエーション時など周辺地域のことや家業の事(農業)など、他ご利用者様の中でもお話し頂ける機会を作りたい。

イラスト

## ミッケルアートを取り入れた効果と数値評価

施設形態	デイサービス(定員19名以上)
認知症	—
介護度	—
ADL移動	1
ADL食事	1
ADL排泄	1
ADL入浴	2
ADL更衣	1
ADL整容	1
認知症自立度	—
寝たきり度	—



### 主な症状

- ・同じことを何度も何度も聞く
- ・よく物をなくしたり、置場所を間違えたり、隠したりする

イラスト

### Q1 コミュニケーションはどのように変化しましたか？

#### ミッケルアートを実施する前は、

明るい性格で、前向きである。レクリエーションにも積極的に参加され、機会があるとご家族のお話、お仕事(美容師)の話などよく話される。

#### ミッケルアートの実施期間中、

よくお話されていた。お話好きでよく話されるが、ミッケルアートを一緒に参加しているご利用者が自身の話を聞いて欲しい方で、途中からはその方に気を使って、話をすることを控えていた様子も見える。

#### ミッケルアートの実施期間中、実施していない日は、

同席の他ご利用者様と明るくよく話されている。午前中は色塗りをしている事が多く、自身で塗り方などを工夫にきれいに塗っている。時には、他ご利用者様にここはこの色で塗ったらどうかしらなどアドバイスもしている。

イラスト

イラスト

### Q2 趣味趣向についてどのようなことがわかりましたか？

やりたいことは、色塗りが好きである。以前は、ご自宅のお庭でバラなどお花をたくさん育てていたが、今は娘様たちからも止められ、あまり出来ないと話す。お花・絵画・洋服などいろいろな事に興味を持ち、前向きである。

イラスト

### Q3 ミッケルアート実施の際に心がけていることや、されている工夫を教えてください

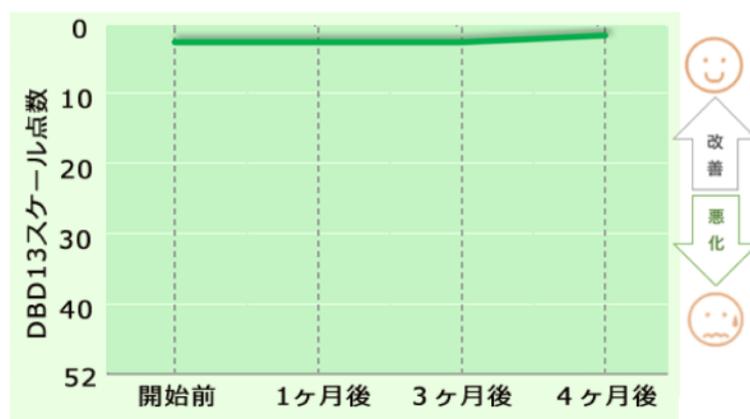
お話好きな方であり、よく話されるが、途中からミッケルアートに参加されている他ご利用者が自身が話しを多くしたい様子である事に少し気づかれその方に遠慮していた様子。個別に対応出来ればと考えたが、時間に余裕がなくあまりできなかったことが悔やまれる。体調がよくない(目眩など)日があり、デイサービスを欠席される事もあった。

### Q4 周辺症状はどのように変化しましたか？

以前は、思い出した事をポツポツと途切れ途切れで話されていた様子だが、時間を追って聞き手にもわかりやすく話されるようになった。

## ミッケルアートを取り入れた効果と数値評価

施設形態	デイサービス(定員19名以上)
認知症	—
介護度	—
ADL移動	1
ADL食事	1
ADL排泄	1
ADL入浴	2
ADL更衣	1
ADL整容	1
認知症自立度	—
寝たきり度	—



### 主な症状

- ・同じことを何度も何度も聞く
- ・よく物をなくしたり,置場所を間違えたり,隠したりする
- ・口汚くののしる

イラスト

### Q1 コミュニケーションはどのように変化しましたか？

ミッケルアートを実施する前は、

ご自身から日頃のご自宅での生活のことなどよく話されていた。

ミッケルアートの実施期間中、

ご自宅での生活の事のほかに、息子様ご家族の事特にお嫁様との事やお孫様の事をよく話されるようになった。

イラスト

### Q3 ミッケルアート実施の際に心がけていることや、されている工夫を教えてください

ご自身で話したい気持ちが強く、ミッケルアートを一緒にしている方が話されていることはあまり聞きたくない様子で、実際にあの人は自分の話ばかりすると言われる事もある。3人の方が順番にお話しを聞いていくように心がけた。

イラスト

### Q4 周辺症状はどのように変化しましたか？

運動系のレクリエーションがお好きな様子だったが、他のレクリエーションにも積極的に参加される様子が見られる。

イラスト

### Q5. ミッケルアートを通じて得られたご利用者様の情報を今後どのように日々の『声かけ』

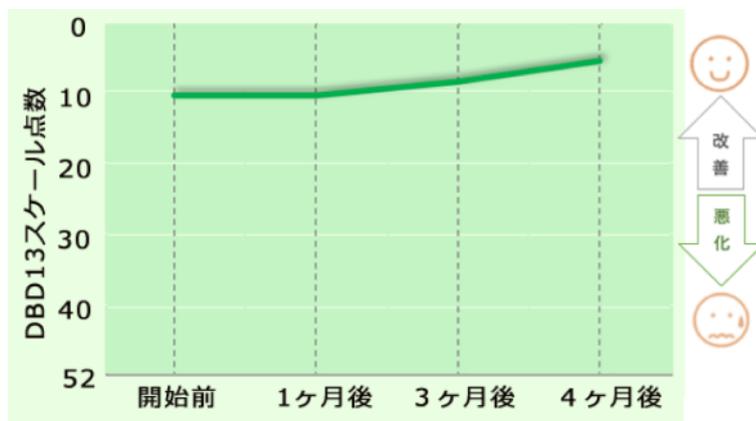
『活動』に活かしたいと思いますか？

・自身が話したいという様子がうかがえ、他ご利用者が話していると下を向いてしまう。個別での対応が望ましく、個別に話をする時間を設けることが望ましい。

・自宅では、お料理をしてお鍋を焦がしてしまったりすることがある。自身が出来ると思っている事と出来る事が違うことがある様子。

## ミッケルアートを取り入れた効果と数値評価

施設形態	デイサービス(定員19名以上)
認知症	アルツハイマー型認知症
介護度	1
ADL移動	1
ADL食事	1
ADL排泄	1
ADL入浴	2
ADL更衣	1
ADL整容	1
認知症自立度	—
寝たきり度	J2



### 主な症状

- ・同じことを何度も何度も聞く
- ・よく物をなくしたり、置場所を間違えたり、隠したりする
- ・日常的な物事に関心を示さない
- ・場違いあるいは季節に合わない不適切な服装をする

イラスト

### Q1 コミュニケーションはどのように変化しましたか？

ミッケルアートを実施する前は、

会話やコミュニケーションが取れないことに苛立つ時も多々あり。

ミッケルアートの実施期間中、

よく発言されている、話し好きも講じて聞き出さなくとも昔話がポンポンでている。思い出は色褪せない

ミッケルアートの実施期間中、実施していない日は、

他の人の話に質問したり自分の昔と比べたりと穏やかに話をされている。

イラスト

### Q3 ミッケルアート実施の際に心がけていることや、されている工夫を教えてください

少し静かな場所を選び、絵を何枚か用意し興味がない場合はこだわらずに次の絵に差し替えて、評価対象者の話をささげらないようにした。Yさんはお話好きなので目を見てお話を聞くようにしました、相槌などもして楽しく会話ができるようにしました。

イラスト

### Q4 周辺症状はどのように変化しましたか？

大きく目立った変化はなかったが、繰り返し発言などが少し減っていった。厚着を好まれていたが季節に合った服装をされるようになった。

### Q5. ミッケルアートを通じて得られたご利用者様の情報を今後どのように日々の『声かけ』

『活動』に活かしたいと思いますか？

- ・話す事が好きなので、傾聴をしっかりしたい。
- ・昔の事をよく覚えているので回想法を取り入れたレクリエーションをやりたい。

イラスト

### Q6 自由記述 (感想や気づいたこと)

話をする事で昔を思い出し、他者との交わりでコミュニケーションを取り自分の居場所を探しているように見えた。

## ミッケルアートを取り入れた効果と数値評価

施設形態	デイサービス(定員19名以上)
認知症	—
介護度	1
ADL移動	1
ADL食事	1
ADL排泄	1
ADL入浴	2
ADL更衣	1
ADL整容	1
認知症自立度	—
寝たきり度	—



### 主な症状

- ・同じことを何度も何度も聞く
- ・よく物をなくしたり,置場所を間違えたり,隠したりする
- ・日常的な物事に関心を示さない
- ・昼間、寝てばかりいる
- ・場違いあるいは季節に合わない不適切な服装をする

イラスト

### Q1 コミュニケーションはどのように変化しましたか？

ミッケルアートを実施する前は、  
傾眠が強い日が多かった

ミッケルアートの実施期間中、  
傾眠する日もあったが起きて過ごされていた。

ミッケルアートの実施期間中、実施していない日は、  
やはりウトウトしていた、うっとりしているのと話している。

イラスト

### Q3 ミッケルアート実施の際に心がけていることや、されている工夫を教えてください

少し静かな場所を選び、絵を何枚か用意し興味がない場合はこだわらずに次の絵に差し替えて、評価対象者の話をささげらないようにした。Tさんはとても控えめな方で他の利用者様が話していると一生懸命聞いてしまうのでTさんに話を振るようにし、話せる時間を作るようにした。

イラスト

### Q4 周辺症状はどのように変化しましたか？

大きく目立った変化はなかったが、繰り返し発言などが少し減っていった。厚着を好まれていたが季節に合った服装をされるようになった。

### Q5. ミッケルアートを通じて得られたご利用者様の情報を今後どのように日々の『声かけ』『活動』に活かしたいと思いますか？

- ・話す事が好きなので、傾聴をしっかりしたい。
- ・昔の事をよく覚えているので回想法を取り入れたレクリエーションをやりたい。

イラスト

### Q6 自由記述（感想や気づいたこと）

話をすることで昔を思い出し、他者との交わりでコミュニケーションを取り自分の居場所を探しているように見えた。